

# 令和3年度 学校法人みどり学園事業報告

## I 法人本部

1) 学生確保及び地域総合介護福祉学科の開設と定員変更について 2022年度入学生から、子ども福祉学科 50名 介護福祉学科 15名 保育幼児教育学科 40名 地域総合介護福祉学科 15名の定員合計定員 120名となる。子ども福祉学科、介護福祉学科で別科学生を受け入れる方針であった。

### ①子ども福祉学科

目標 令和4年入学生については、子ども福祉学科入学生 60名(定員 50名)別科生 10名を目標、1、2年生合わせて本科生 113名(定員 110名)別科生 13名の目標とした

結果 子ども福祉学科入学生は、オープンキャンパスの好評にもかかわらず 51名で定員枠を上回ったものの、目標の 60名には及ばなかった。また大阪府の委託生については、委託卒業生の 80%が就職していることの要件を満たさず応募出来なかった。結果、本科生 2年 49名(4名退学)+1年 51名の合計 100名(定員枠 60+50=110名)、別科生 3名の合計 103名となった。

### ②介護福祉学科

目標 令和4年介護福祉学科(大阪)15人別科 20人。大阪で 20名の外国人留学生学生受け入れる方針で本科 1、2年生合わせて 30名、別科 40名あわせて 70人の目標

結果 2022/4/入学生について、本科日本人 16名 別科留学生 8名。本科 1、2年生合わせて 37名(定員 20+15=35)別科 28名合計 65名(2021年入学生数大阪 12 安来 9 計 21+別科 20)

### ③地域総合介護福祉学科

目標 15名定員に対して、15名の入学生受け入れを目標とする。そのうち 10名については、大阪からの外国人留学生とする。

結果 留学生をめぐる情勢の変化があり 3名にとどまった

### ④保育幼児教育学科 (定員 40)

目標 入学学生数は、48名(1、2年生合わせて 86名/定員 80名)を目標とする。

結果 2022/4/入学生本科 35名、委託生 7人

	子ども福祉学科	保育幼児教育学科	介護福祉学科	地域総合介護福祉学科	合計/120
本科 1年	51	41	16	3	112
別科	0	(7)	8	0	8
本科 2年	48	37	23	無	110
別科	3	(7)	20	無	23
合計本科	99	79	39	3	222/240
別科	3	(14)	28	0	31
2020 本科	36	42	19	無	105
2020 別科	17	(7)	5	無	18

## 2)経営改善とシェアタウン泉ヶ丘ネクスト 2 期工事の断念

①短大の高倉台西小学校跡地への移転は、紀陽銀行からの融資を受けシェアタウン泉ヶ丘ネクスト 1 期工事として実行した。2 期工事では、別紙全体図を実現する予定であったが、銀行からの融資が得られず断念に追い込まれた。しかし、堺市との交渉の結果、賃借料は大学部分に限定されたため経営的には安定することが期待される。短大の財務上の問題点は、継続して赤字であることであった。その原因は、①入学学生数の不足であり特に社会環境の変化による介護福祉士希望学生数の激減②駅前学舎の高額な賃借料であった。学生数確保は、上記記載方針通り改善している。高倉台賃借料が、年間 1000 万以内に減少することから、教育研究経費は大幅に削減されることが確定した。②その結果 今年度の教育研究収支は、黒字となる見通しとなり、今後安定した学生確保に成功すれば、安定した経営が実現できる。ただしハルカス経費は、ユーキャン通信教育の撤退によって大幅赤字であり、改善策が必要である。

### ③2021 年度決算見通し 別紙

## 3)ガバナンスと教職員待遇

法人本部と短大の指揮系統の整理、経費支出関係の決済の整備、島根大阪の事業部所の差異による労働条件の整備などに取り組んだ。

## II 大阪健康福祉短期大学の事業報告

### 1. 【介護福祉学科・子ども福祉学科事業報告】

堺市泉北ニュータウン高倉台西小学校跡地への新校舎建設を 2020/7 より行い 2021 年 4 月開設を実現した。新しいキャンパスは、中庭があり、駅近にもかかわらずみどりが多く学生、教職員、関係者から好評である。

②介護福祉学科では、2021/4 月入学生は、留学生を大阪 12 名安来 9 名計 21 名受け入れた。生活支援のため大阪では担当者を雇用、講義では、日本語特別講座を開設するなど、留学生受け入れがスムーズに行くように努力した。生活支援に苦勞した。

③保育幼児教育学科では、学生の勉学条件の改善のために、ビナスガーデンのテナントを 1 軒新たに借り入れ、ピアノ練習室として改造費用 500 万円及び大雨の被害修繕老朽化対応で 1000 万円の費用が発生した。賃借料は、月 10 万円増加した。

#### ④コロナ対策と学生支援

2020 年度春よりコロナ感染症対策で、ウェブ講義などを、行政指導されたため、その対応に教務委員会、学生委員会などで対応した。コロナ禍での生活困難に対して、学生支援基金を使い、生活物資支援を今年度も行った。経済的負担に耐えきれず退学する学生があり、学生への緊急経済支援について検討する必要がある。2021 年度も一部学生でコロナ感染陽性者が発生したが、保健所の指示に従い、適切に対応した(文科省報告済み)。

#### ④ 地域と繋がりようプロジェクトの成功

今年度から泉ヶ丘駅広場での地域とつながりようプロジェクトに当短大もブースを出店して参加。特にハロウィンでは、子どもたちから好評で、地域での存在感が増している。今後も引き続き参加していく。短大としては、三原台青少年健全育成協議会に加入した。

⑤(大阪)コロナ対策のため建福祭を断念、代替イベントを実施  
学生交流会などを実施した。

## 2. 【松江・安来学舎事業報告】

目標及び項目	状況・考察・課題	今後の方針
<p>1. 学科就業規則の運用</p> <p>(1)裁量労働体制の導入</p> <p>(2)事務職員の時間差勤務体制の導入</p> <p>(3)学校評価制度の検討</p>	<p>4月1日より学科就業規則を運用。 労働基準局に届出る義務のある就業規則が未完了未提出であったことから急ぎ整備を行った。</p> <p>(1)大学教員が研究者・教育者・学校事業推進者として求められる技能を育成するためには固定的な時間制による就労形態から個々の判断でより成果を上げることが出来る勤務体制を適用することのメリットが大きいことは周知である。本学においてこうした勤務体制が整備されていなかったことから採用に至った。 この労働制を採用しての教員個々の所感はアンケート結果のとおりである。</p> <p>(2)事務長補佐の総括を参照</p> <p>(3)本来平成19年に整備されるべき学校自己点検自己評価制度について検討に入った。当初は人事考課の資料となる評価制度を前提としていたが、教員の合意形成が十分でなかったことから拙速な対応は避け、自己評価制度として採用することとした。手法として特別検討会（教員業績評価指針検討会議）を組織し、計9回の協議を行った。協議の経過は以下のとおり。 □第1回 2021.03.11（前年度） 2022年度検討開始の前提として、文部科学省の学校評価制度の内容を確認した上で本学の評価システム不在状況に対して本制度の必要性を共有し、同評価指針案を学長代理から提出 □第2回 2021.04.08 本学科の教育構造を確認し、教育目標の未設定から業績評価指針の検討が不十分となるとの指摘があり、まずは教育目標の検討を行うこととした。 □第3回 2021.05.13 島根総合福祉専門学校児童福祉科教育目標を参考にその構造と要素を確認した上で、本学科の教育目標を構造化するためのキーワードを抽出した。 また、教育理念、ディプロマ・ポリシー等との相関性を確認した。</p>	<p>1. 今後改善すべき点があればその都度協議検討し改善する。</p> <p>(1)アンケート結果から抽出される課題について協議しながら合意形成し改善する。</p> <p>(2)継続</p> <p>(3)次年度より当該評価制度を採用。各教員が自主的に計画を策定し、年度末に自己評価を行い研鑽を進めることとする。学科長並びに学長代理は前向きな就労につながるよう支援を行う。</p>

<p>2. 系統的教育研究体制の確立</p> <p>(1)全ての学生が目標を達成し地域に定着できる教育方法の確立</p> <p>①学業を通じた人格形成支援</p> <p>②「読む」「書く」「話す」基本的な力の強化</p>	<p>□第4回 2021.06.03</p> <p>前回抽出したキーワードをもとに、教育目標設定にあたって教育要領、保育所保育指針の内容にそって設けるかを論点として協議し、それらを押さえながら、地域特性等を踏まえた本学科の独自性を重視した内容にすることとした。</p> <p>□第5回 2021.07.08</p> <p>各教員から教育目標案の提出がなされ、これらを基に協議を行った。具体的で理解しやすいものにするという合意を形成し、キーワードを拾った。</p> <p>□第6回 2021.08.06</p> <p>前科の継続審議</p> <p>□第7回 2021.09.09</p> <p>これまでの協議内容を踏まえて学長代理が原案を作成、提出し検討し、教育目標を策定した。</p> <p>□第8回 2021.10.14</p> <p>教育目標の策定を受けて、当該業績評価指針の策定に取り掛かった。当初は、個々の教員の自己評価と学長代理及び学科長が行う他者評価を基に改善点を確認し求められる教育力等を向上させる意図があったが、まずは他者評価を偏重せず、自己評価を重視し共有するところから取り組みを始めることとなった。よって、人事評価に反映しないことも確認した。</p> <p>□第9回 2021.11.11</p> <p>前回の協議を受けて当該評価指針の具体的な内容を検討した。特に4つの領域についてここに検討を行い内容によっては大学委員会の取り組みを反映する基とした。</p> <p>この回をもって協議は終了し、2022年度から実践することとした。指針及び関係書式は学長代理が作成することとした。</p> <p>(1)前年度事業を総括し、学科開設以来一定程度の中途退学者がある状況に対して、「あるべき学生(専門職を目指す)の姿」をゴールとした場合に様々な困難性を抱える学生及び家族が確認でき、「あるべき論」では解決できない事例を教職員間で共有した。</p> <p>これに対してできる教育と支援は、対象となる学生個々に適した学習環境を創る他にないことから、学習上のゴールは変えないが、可能な限り本人が前</p>	<p>(1)地元からの進学者に対して、個別ケアを手厚くし、出来る限り地元の保育現場に人材輩出をすることを基本方針とする。</p>
--	--	--

<p>③学生の個別課題への対応強化～早期アセスメントの実施 ④学生相談とゼミ指導の連携</p> <p>(2)学科運営にかかる合意形成手法の確立</p> <p>①機能的な会議運営</p> <p>②教職員相互の信頼関係に基づく情報共有と意見交換 ③個々の主体的役割の明確化と協働</p> <p>(3)学術研究実践並びに研究業績の積み上げ</p> <p>①専任教員の教科間連携とカリキュラム体系の進化</p>	<p>向きに取り組める環境を、ゼミ担当者を中心に構築することとした。</p> <p>また、学生相談室カウンセラーとの連携を強化し、情報を共有しながら対応していく姿勢が生まれた。</p> <p>その結果、今年度は現段階で休学者が1名あるものの退学者はいない。</p> <p>(2)一つのゴールに向かって教職員各々が組織化され機能していき、成果を共有することは事業体として最も重要である。その為には、事業体としての目的が設定され、それに対する十分な理解の下に構成員個々が目標を設定し成果を上げることが求められる。事業推進プロセスにおいて合意形成は、全員で取り組むべき課題である。</p> <p>①学科会議運営については、議題及び報告事項の提出に期限を設け、提出事前協議の仕組みを入れることによって一定程度の提案事項の課題を明確にし、進行予測が可能になった。この手法は、特に進行を担当する学科長にとって重要であると認識している。</p> <p>大阪本校との合同会議について、各委員会は別にして、運営会議及び教授会の審議・報告内容と会議形態は改善の余地があると捉えている。各学舎の専決事項を設けることによる効率的な進行と、事務的議案に対して教育深化のための議案を分別し、大学としての意味を問う作業を進めるべきではないかと考えている。</p> <p>②③就労現場において生まれる様々な課題に対して構成員の相互理解と協議を通じた解決を図るプログラムが開発され、チームとして機能しているかということについて実感が持てていない。</p> <p>(3)今年度の教員職位配置は、教授3人(中原先生含む)、准教授1人、講師5人である。各職位のバランス良い配置が課題であり、更に教職課程を維持できる研究領域のカバーが必須である。</p> <p>①今年度、教職課程については再課程認定と合わせカリキュラム変更を行った。全教員による協議を経て行うことが出来たが、今後定期的カリキュラムの点検改善が求められる。各教員のカバー領域を踏</p>	<p>①継続</p> <p>検討</p> <p>②③次年度から業績自己評価と他者評価制度導入することによって、教職員個々が自己研鑽し繋がっていくことを期待したい。</p> <p>①本学科カリキュラムを見据えた研究連携が計画されており、更に進</p>
---	---	--

<p>②学術誌の発行</p> <p>③島根県保育士養成校連絡協議会事業への参加を通じた研究フィールドの開拓</p> <p>④保育・幼児教育ネットワークの構築</p> <p>(4)学生の学校生活環境の充実</p> <p>①図書館機能の充実</p> <p>②地元ピアノ教室の校舎使用</p> <p>③学生への情報伝達システムの検討</p> <p>④スクールカウンセラーの機能強化</p> <p>⑤学生協議会活動の奨励・支援</p> <p>(5)新型コロナウイルス感染症対策等の安全対策</p> <p>3. 学生協議会事業の支援</p> <p>(1)課外活動の組織化支援</p>	<p>まえた教科間連携と研究連携が必要と考えている。</p> <p>②本学科単独の学術誌発行は、現時点で現実的ではない。本校が発行を担当する研究紀要においては本学科教員の投稿掲載が大半を占めており、これを分けることの必要性は認識されていない。</p> <p>③「6. 地域貢献と付帯事業」欄に記載</p> <p>④全く現実化していない。今年度は前項③の事業等が優先される状況があり繁忙を極めたことから、事業化を再検討する必要がある。</p> <p>(4)学生の学習環境整備は継続な課題であることから、要望も集めながら対応してきている。</p> <p>①図書館を管理棟1階に移動し、より快適で機能的な環境とした。しかし、9月豪雨によって利用環境を変えざるを得なくなったが以前に比して環境改善ができています。</p> <p>②継続的に利用してもらっている。今年度からは学生からもレッスン料を徴収している。</p> <p>③メールによる情報伝達を実施。</p> <p>④前述</p> <p>⑤学生協議会からの要望書を受取り可能な内容で対応した。活動は未組織状態であるが課題として認識されている。</p> <p>(5)島根県からの要請事項を遵守しながら、学科会議によって対策についての共通理解を進めながら実施してきた。幸いに今日まで感染者は出ていない。(詳細は保健委員会報告)</p> <p>現状は、2-(4)-⑤で既述したように、新型コロナウイルス感染症予防の必要性から停滞せざるを得ない状況が続いている。</p> <p>しかし、在学中の2年間でどのような活動スキルを身につけるのか、いかに自発的な活動を展開するかは学業と同様に重要なテーマであることから工夫をしつつ活動実績を積み上げてもらいたい。</p>	<p>めて行きたい。</p> <p>②『創発』への掲載</p> <p>④凍結</p> <p>①新年度は当初環境に戻し利用</p> <p>②継続</p> <p>④前述</p> <p>⑤一層の支援が必要</p> <p>(6)継続</p> <p>3. 継続</p>
--	--	---

<p>(2)活動費助成</p> <p>(3)学術研究への学生参加支援</p> <p>4. 学生募集計画</p> <p>(1)募集目標（前掲）</p> <p>(2)入試制度の変更</p> <p>①受験科目の変更</p> <p>②第7回選抜の実施</p> <p>③学校推薦枠の増</p> <p>5. 将来構想の検討</p> <p>(1)幼稚園 2 種免許状通信課程の検討</p>	<p>今年度実績は下表のとおり。</p> <p>①一般選抜に「現代社会」を増設したが、実際には全ての受験者が「現代国語」を選択した。しかし、選択肢を用意しておくことは重要である。</p> <p>②第7回の受験者はいなかったが、選択肢として設定しておくことは重要。</p> <p>③推薦ではないものの、専願である総合型選抜にエントリーしていた2名の受験辞退が同一私立校から出た。合わせて当該高校では、事前相談で必ず本学に入学したいと言っていた生徒1名が一般選抜を出願しながら受験しなかった。</p> <p>受験者本人の意思とは別に、進学指導のあり様に疑問を持たざるを得ない状況から、相互の信頼関係が作られていない現状を認識した。</p> <p>(表－学生募集実績)</p> <table border="1" data-bbox="475 1055 1106 1451"> <thead> <tr> <th rowspan="2">募集種別</th> <th rowspan="2">募集人数</th> <th colspan="2">実績</th> </tr> <tr> <th>入学者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合型選抜 A</td> <td>10 名</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>総合型選抜 B</td> <td>2 名</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>学校推薦型選抜 A</td> <td>18 名</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>学校推薦型選抜 B</td> <td>2 名</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般選抜</td> <td>4 名</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>社会人選抜（自己推薦）</td> <td>4 名</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>40 名</td> <td>41</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>(20220501 現在)</p> <p>(1)定員 40 名福祉系学科のみでの将来に向けた経営継続性は十分とは言えない。中でも、短期大学進学率が近 10 年間で激減している状況を見ると、新たな機能を持つことが必要であることが分かる。</p> <p>(1) 今年度本格的な検討に入っていない。近隣養成校 2 校、特にその内の 1 校は地元で免許取得が可能になることについて歓迎している。</p> <p>大学経営委員会においても十分な検討に至っていない状況であり、開設 4 年目で教育研究業務に比</p>	募集種別	募集人数	実績		入学者数	受験者数	総合型選抜 A	10 名	7	7	総合型選抜 B	2 名	0	0	学校推薦型選抜 A	18 名	22	22	学校推薦型選抜 B	2 名	0	0	一般選抜	4 名	5	8	社会人選抜（自己推薦）	4 名	7	8	計	40 名	41	45	<p>(1)継続</p> <p>①②継続</p> <p>③指定校推薦枠の設定について、当該高校の指定数を検討する。</p> <p>(1)凍結</p>
募集種別	募集人数			実績																																
		入学者数	受験者数																																	
総合型選抜 A	10 名	7	7																																	
総合型選抜 B	2 名	0	0																																	
学校推薦型選抜 A	18 名	22	22																																	
学校推薦型選抜 B	2 名	0	0																																	
一般選抜	4 名	5	8																																	
社会人選抜（自己推薦）	4 名	7	8																																	
計	40 名	41	45																																	

<p>(2)定員増の検討</p> <p>6. 地域貢献と付帯事業</p> <p>(1)地域における保育人材確保と有資格者養成</p> <p>①保育士・幼稚園教諭特例講座</p> <p>②地域向け保育イベント</p> <p>③公開講座等の実施</p> <p>(2)地域交流・研修事業</p> <p>①隠岐郡海士町福祉体験交流事業</p> <p>②大阪保育体験研修</p> <p>③川津公民館等地域行事への参加</p> <p>(3)島根県保育士養成校連絡協議会</p>	<p>重を置く時期であることから慎重な検討が必要と考えている。</p> <p>(2)未検討</p> <p>現在は、施設設備等教育環境の面から定員増は妥当とは考えにくい。</p> <p>保育士確保は、島根県において喫緊の課題と認識されていることから養成校として可能なアクションを起こしてきた。</p> <p>しかし、保育士不足状況に対する解釈が変わりつつある。松江市、出雲市ではほぼ充足との見方があり、地域特性等を考慮した対策の検討が必要になっている。</p> <p>①保育士養成講座のみ実施した。県内事業所に募集をかけたが、ほぼニーズ充足したのではないかと判断される（詳細は教務の総括参照）。</p> <p>②新型コロナ感染症拡大の関係もあり未計画未実施。</p> <p>③前項と同様に進展なし。</p> <p>①新型コロナ感染症拡大の関係から未実施。</p> <p>②新型コロナ感染症拡大の関係から未実施。</p> <p>③4月、朝酌川フラワープロジェクトに参加した。地域からは大変喜ばれた（学生委員会総括資料参照）。</p> <p>(3)前年度11月に発足し、今年度会長及び事務局校として事業を行ってきた（詳細はフォルダー内資料参照）。</p> <p>新型コロナ感染症拡大防止の観点から計画していた島根県西部地域進学説明会は中止した。</p> <p>会の必要性は認識できるものの、各校とも、特に専門学校と大学との認識に格差があり、事業推進に係る意思統一や合意形成が不十分な状況がある。目</p>	<p>(2)凍結</p> <p>(1)地域貢献を可能にし、かつ大学経営上有効な計画の策定が必要になっている。</p> <p>島根県でも具体的なプランはできていない。</p> <p>①次年度の開催そのものを検討。</p> <p>②保留</p> <p>③「福祉実践研究センターしまね支部」を開設し、福祉哲学研究所（秋山智久先生主宰）との共同事業として実施する。</p> <p>①保留</p> <p>②保留</p> <p>③継続</p> <p>(3)各WGにおいて、保育事業所との連携体制を構築し、実効的な事業計画を策定する。</p> <p>本学科の実施体制は継続する。</p>
--	---	--



<p>(4)日本ボランティア学習学会島根大会</p>	<p>的や事業内容を明確化し、一定のビジョンを形成することが次年度の課題である。</p> <p>(4)大会開催に向けて7月以降13回の事務局会議、4回の運営会議及び実行委員会を開催し、大会の骨格を形成してきた（詳細はフォルダー内資料参照）。      学長を大会実行委員長に、30名の実行委員体制となっている。      本学科が大会事務局を担当し、学長代理が大会副実行委員長兼事務局長を務め、事務局スタッフとして川内・宇山・宮澤が参加している。      ボランティア学習は、高校生・大学生を主体とした自発的な社会参加活動であり、市民養成のレッスンの意味合いを持ちつつ、若者が社会との接点でアイデンティティを形成していく点に特徴がある。特に、知識重視の学校教育に対して「計画－実行－共有－振り返り－再チャレンジ」といった個人の参加意思を基盤とした協働型アクションが若者の成長を促している。      本学では「地域実践演習」がこうした活動の場として機能するイメージも持つことが出来る。      大会準備を通して5つの分科会（NPO法人・社会福祉法人・企業等のボランティア、公民館活動、災害ボランティア・防災教育、教育委員会と地域のボランティア・社会福祉協議会の社会的活動）を担当する幅広い専門領域における人間関係が構築され、単に本学の知名度向上を期待するのみならず教育の質的向上の契機となることを期待している。</p>	<p>(4)2022年11月26・27日大会開催(松江市社会福祉センター・しまねいきいきプラザ)</p>
----------------------------	---	--

### Ⅲ. 令和3年度 認定こども園 みどり幼稚園事業報告

#### 1. 教育・保育方針

今年(R.3)は、コロナウイルスの新種株オミクロン株が猛威を振るった年であったが、新年早々に本園でも初めてのコロナウイルスによる休園を経験した年となった。通常の幼児教育カリキュラムが約10日間にわたり停止されたが、日々成長して行く幼児期の子どもたちの成長を保障すべく、土曜日の午前中の時間を使ってにこにこ登園日を実施、子どもたちと先生たちの大切な時間を保障した。

昨年と同様、発表会や卒園式についても、参加可能な保護者は1人となったが、ご家庭で待機される他の保護者の皆様には、今年もYouTubeによるライブ配信を活用して子どもたちの成長の節目となる発表をより多くの大人たちに見守られながら行うことができた。

昨年に引き続きコロナ禍2年目となった本年も昨年と同様に感染防止対策やコロナ禍版の行事お手紙の作成やライブ配信等体力的にも大変であったことと心労も絶えなかったが、2年目にしてようやく、幼児期の子どもたちの教育環境を維持しながら、保護者の方々にも子育ての喜びをコロナ禍でなかった年と同じように体験してもらえるルールが引けた

と感ることができた年であった。

### (1)教育内容

確かな就学前教育(幼稚園から小学校への接続)を実施すること、早期教育、教科学習の先取ではなく、就学後の学習にふさわしい土台をつくることができた。

- ①. 社会性・精神的な成長 (仲間づくり、ケンカ、仲直り)
- ②. 運動操作性・肉体的な成長 (律動、両生類のハイハイ、コマ回し)反復説による運動
- ③. 基本的生活の定着 (食・生活リズム)
- ④. 知識・先行体験 (実験、天体観望お月見、飼育、栽培)
- ⑤. PTA 活動、親と保育者のパートナーシップ、  
役員選出委員会、会員の自主的な運営を援助した総会、クラス委員活動で孤立した親子のカプセル家庭を無くす取組は本年度はできませんでした。
- ⑥. ダディーの会(PTA 父親の会) 父親の教育への理解は子育ての大きな力になる。

#### 主な行事

6月・・・講演会・学習会は中止

8月・・・盆踊りは各学年ごとに分けて開催した。花火大会は中止し、手持ち花火を配布した。模擬店はコリントゲームをした。ダディーの会のお父さんたちの頑張りでもとても盛り上がった。

「天体望遠鏡お月見会」は曇り時々晴れのためクリアな月面は見えなかったが親子で星座早見盤の操作を覚えてもらった。25組ほどの親子でなんとか楽しむことができた。

1月・・・お正月交流会(薪で野焼した焼芋を食べる会)は各学年別に開催し、多くのご家庭が参加され第2園庭で親子で玉入れ競争などをして楽しいひと時を過ごすことができた。お芋もとても甘くておいしかった。

同日の午後には、卒園生対象のかくし芸同窓会も開催され、多くの小学生が集まり大盛況だった。

### (2) 国際交流保育

各年齢とも週一回の123ミック英会話授業を実施した。指導には本園専属のネイティブ講師があたり、楽しく歌ったり動いたりゲームをしたりして、自然に本場の発音に触れさせた。また、3密を避けながらハロウィンパーティーなど楽しく取り組む中で、身振り手振りで英語を試す機会をつくり、異文化に親しみ、これからの学ぶ意欲につなげた。年度末には写真入の英語課程修了書(Certificate)を授与した。

### (3) 安全・防犯

- ① 送迎時の引渡確認「命の札」、正門の電磁式錠、テレビつきインターホン
- ② 避難訓練・防災対策

火災非難訓練、地震避難訓練または暴漢乱入対策訓練を順に毎月1回計画した。避難誘導の演習とともに全職員の「刺又」を使つての対暴漢防御訓練も定期的に行つた。ネット銃、催涙スプレーは小型化になった。男性職員は防刃ジャケット、防刃グラブ・警棒などの防御装置も常備し、震災に強い建物(耐震補強済)とともに安全な園として機能した。

### (4) 園児対象の一時預かり事業(預かり保育)

- ① チポリーノ 平日延長保育

朝7時30分から通常保育時間(9:30~13:30)を挿み夕6時30分まで預かるアットホームな預かり保育。

- ② ホームクラス 春・夏・冬休み中の預かり保育

朝8時から夕5時までと、必要な家庭は朝7時半から夕6時30分までの延長ができるアットホームな預かり保育。暑い夏休みはプール保育が中心なのでとても人数が多かった。

③ レインボー 土曜預かり保育

毎土曜日の朝 8 時より夕 5 時までの間で子どもたちの知的好奇心をくすぐる様々な「熱気球、滑車による綱引き、水ロケット」などの『面白実験』の実演、『流しそうめん』や『石釜でのピザ作り』などをおりませ、平日ではなかなかできない子どもたちがわくわくする実体験型の楽しい時間が入る。内容によっては部分参加もできるので、とても多い時もあったので時間を分けて行った。

④ 行事日保育

行事のある日の預かり保育

終業式、遠足や個人懇談等平日に行う行事の日にも延長保育を行った。延長も可申込形態は年次預かり、期間預かり、月次預かり、臨時預かり(直前申込)で行われた。

(5) 教員体制

令和3年度は、クラス数は同様に3クラス(年長1、年中1、年少 1(2 グループ))体制となり、保育者は園長 1 名、副園長 1 名、教頭 1 名、主幹教諭 1 名、専任教諭 5 名、兼任教諭 1 名、事務職員 1 名、専任子育て支援員 2 名、兼任子育て支援員 2 名、調理員 2 名の計 17 名体制(5/1)となった。

2. 運営・経営

(1) 園児募集

昨年秋の本年度の受付も同様に、1号認定児はまず募集定員の2分の1までを本園に卒園児や在園児がおられるご家庭のための優先受付とし、残りの2分の1は相性試験による一般受付とした。

ただし一般受付の中のさらに半数の方には、3か月後の2月に市が2号児を確定するまで待っていただかなくてはならず、2月に待ち組の1番から順に電話していったが、待てずに他園に行かれた方もいた。

一方預かり保育は、本年度も、3ヵ月に1度の補助金を申請することで月額5000円程で本園の預かり保育を1年を通して朝から夕方まで利用できるコースに1号児84名中14の方が申込まれた。

幼稚園型・認定こども園 1号認定児 2号認定児(短時間・標準時間) R.04.05.01

(2号認定児内数)	3歳児1学級 2グループ		4歳児 1学級	5歳児 1学級	計 3学級
	満3歳児	3歳児			
	R4.03.01 現在在籍数	4	28(3)	28(5)	35(4)
進級時予定転・退園児数	0	0	2(1)		2(1)
進級園児数		4(0)	26(4)	28(5)	58(9)
新入園児数	1	29(7)	6(2)	1(1)	37(10)
R.4年度在籍数(3学級)	1	33(7)	32(6)	29(6)	95(19)

(2)教員募集

令和3年度も私立幼稚園では、教員の確保は年々難しくなっているが、本園のホームページ上に現役教員からのメッセージと写真入の本園の保育方針を載せたページを見て本園に興味を持った方を対象に、1次面接兼本園への質問会の場を設けた。

そしてこの質問会で気さくにたくさん質問してもらう中で、短い時間ではあったが、普通の堅苦しい面接よりもよりお互いのことを少しずつ知ることができたように感じた。

2次試験には、この幼稚園なら働いてみたいと思ってくれた方を対象に行ったが、結果人材紹介会社からも含めて計5名の職員を獲得することができた。

(3)施設設備

① 施設関係

本年度は特に大きな工事は無かった。

#### 今後の課題

- ① QRコード付き命の札システムの導入
- ② 第2園庭のナイター用園庭ライトの増設
- ③ 運動会などの戸外での拡声器・無線マイク設備の研究と更新
- ④ 発表会等の演出効果音 CD、DVD 編集録音録画機材、ブルートゥース等
- ⑤ 放送設備の更新

#### (4)中長期計画その他

子どもたちの未来のためにも 2011 年の 3.11 以後の脱原子力エネルギーと生活スタイルの見直し、再生可能エネルギーの爆発的普及に協力するとともに、将来の園舎には太陽熱・光、小型風車利用の再生可能エネルギー・高断熱エコ仕様、地震対策として免震構造などの新技術を反映させたみどり豊かな安全で経済的な園舎を長期計画する。

今年度は減価償却引当累計額を目標に同引当特定資産を増額する予定であったが、減価償却額の確定する次期 4 月に回し、将来の建て替えに備える。(再生産の準備)